



① 元島民の証言 ～戦前の島の暮らし～

中田 勇さん（色丹島）

明治38年ごろ、私の祖父が色丹島の太平洋側に入植して漁師をしていました。生活は非常に安定していて、自給自足に近く、ノリやギンナンソウ、コンブ、サケ、マス、タラをすべて自分のところで製造し、製品にして出していました。

電気のない生活、ランプ・カーバイトの灯り、そして医者がない。私たち兄弟6人は島で生まれ、私は2番目です。産婆さんがいなかったので、経験のあるおばあちゃんが私たちを取り上げてくれました。その代わり、地域の人たちは仲が良く、一つのものでも二つに分け合う生活をしていました。

和泉公夫さん（国後島 泊村）

国後島で三番目に大きな小学校に通いました。生徒は5月ごろになる急激に増えます。というのは、夫婦で子どもを連れて働きに来る人がいて、20〜30人くらい、季節ごとの移動があったと思います。

高等小学校の時は英語も少々習いました。野球もしました。軟式のゴムボールで、少し叩くと海に飛んでいき、海に入ったらホームランです。一番はじめに行き合って交わす挨拶が「めし食ってきたか？」なんです。部落内の絆は家族同様でした。

隅田サキさん（歯舞群島 水晶島）

私が生まれ育った水晶島は、冬は四方を氷に閉ざされてしまうのですが、早春には福寿草や雪割小桜が咲き、夏はエゾカンゾウの金色が風に揺れ、鈴蘭やワタスゲの白が草原を彩っていました。

アヤメが紫のジュータンを敷きつめたように咲き、白い砂丘には深紅のハマナスが実を結ぶ絵のような楽園でした。

佐藤良三さん（択捉島）

私の故郷の択捉島は、ほぼ中央部に北緯45度線が走っていて、それを境にして島の風土が異なります。おおまかにいうと、北はカムチャツカ系の植物、南は北日本系の植物に分かれ、北は白樺、ハンノキ、ハイマツがほぼ全体を覆い、南はエゾマツ、トドマツの森林があり、ここではマツタケが採れ、香りが非常に良く商品として青森 函館に出荷したこともありました。

ウルモンベツ沼には、東洋一を誇る紅さけのふ化場がありました。間口13㍍、奥行き45㍍、鉄筋コンクリートの堂々たる建造物です。また、ウタスツ湾には毎年9月、10月にかけて回遊してくるマグロの大群があり、最盛漁期には80〜150キロの大物が300本ほど捕れた記録があります。



② 元島民の証言 ～戦争が終わって～

福士美和子さん（齒舞群島 志発島）

父が夜中に「大変なことになった、日本が負けた」と言っていて、近所に日本の兵隊さんがたくさんいて、うちの倉庫にも泊まっていたので、兵隊さんから聞いたようでした。

私は「最後の一人までも戦って、死んでもいいと思っていたのに」と姉たちと3人で声を上げて泣きました。日本の兵隊さんたちも最後には一人もいなくなり、みんなソ連に連れて行かれてしまいました。

富山清人さん（齒舞群島 多楽島）

終戦時 島にラジオを持った人がいまして、

島の駐在所にラジオが一台だけあり、それを聞いて戦争が終わった、日本が負けたんだ、ということ、そのときは、もう中には涙を流して、私もそうでしたけれども、このあとどうなるのか、という心配が次に起きてきました。

市川清壽さん（国後島 泊村）

私は海軍に入って航空隊の整備兵を終戦までしていました。（復員して根室へ戻ると）ほとんど家が焼けて何も無い。

空襲でやられてしまっ、びつくりしました。「もう島には戻れない」と言われましたが、何とか行く方法はないかと、毎日根室にあった国後の漁業組合事務所に通いました。私は乗っていく船までお願いして頼んで、決めていました。

ところがだんだん情勢が悪くなり、島にいる家族から「漁師でないから船もないし、無理をして引き揚げはしない。何年かかるかわからないが、おまえは来るな。おまえは軍人だから、来たら捕まるからダメだ」という手紙が来て、島に帰るのを断念しました。



③ 元島民の証言 ～ソ連軍の侵攻～

鈴木咲子さん（択捉島）

戦争が終り、穏やかな島の生活が戻りつつあった昭和20年9月28日、突然ソビエト軍が侵攻して来て択捉島を占領してしまいました。

私が初めてソビエト兵を目の当りにしたのはその数日後、黒光りした銃を片手に土足のまま私の家上がり込み、腕時計や万年筆等を探し回って略奪された時でした。ある家では、主人の留守に一時以上もソビエト兵に家の中を物色され、その家の主婦は恐ろしさのあまり4人の子供たちに晴れ着を着せて死を覚悟する等、ソビエト兵の横暴振りは日常茶飯事でした。

このままでは生活が出来ないと、村の代表が日本人の身の安全をソビエト軍に要請した結果、当初のような事は少なくなりました。

鈴木としさん（色丹島）

ソ連兵が「ムスメ、ムスメ」と言っていたからと、父が娘たち4人を隠す部屋を布団部屋の陰に作り、私たちはソ連兵が来る度にそこに隠れることになったのです。

また、空襲に備えて山の方に大きな防空壕を作り、食料品や島民への配給の物資等を入れていましたが、その防空壕をソ連兵に見つけられ、中の物を荒らされ、没収されてしまいました。

当時とても貴重品だった乳児用の練乳の缶に銃の先で穴を開け、半分程飲んで捨てるソ連兵の姿を、文句も言えず、ただ陰から見ていたばかりでした。

小田島梶子さん（色丹島 色丹村）

ロシア人が来て、家に土足で入ってきて、一番悔しい思いをして、今でも無念と思うことが一つあります。私は子どものときに旗日に国旗を掲げる役目だったのですが、玉と国旗をきちんとしまっておいたところをタンスの引き出しをあげ、日の丸の旗を開いて二つに裂いたんです。

私は一番大事にしていたものだから、ふっと出た時に、母がぎゅっと私の手を引きました。あとから考えると、もし出て行って手にしがみついていたら、きっとピストルで撃たれて殺されていただろうなと思います。

若松富子さん（歯舞群島 志発島）

砂を噛むような夕食をしていた時でした。近くの西村さんの帳場さんが訪ねて来られました。

「ソ連の国に住んでいる事は出来ない。根室へ脱出したいが、船の舵を取ってもらえないだろうか」と言うお話です。大勢の女、子供をどうしようかと、困っていた父は、二つ返事でお引き受けしました。

私の父は島に渡るまでは船頭をしていて、「根室海峡なら目をつぶっていても航海できる」と自慢でした。最初は身内とごく近所の人たちだけと思っていたの脱出行だったのですが、島の人達は皆、夜になっても眠れず、隣近所の様子を伺っていたようで、私たちの脱出行はアツという間に伝わり、船はまたたく間に満船になってしまいました。

根室に着いたのは、翌日のお昼頃だったと思います。初めての集団脱出という事で、報道関係の人たちが大勢、取材に見えていました。

笠井文子さん（歯舞群島 勇留島）

ソ連のいない隙を見て、娘だけでも根室に逃がさなければと親は考えました。昭和20年9月8日早朝、近所の昆布船にお願いし、私と友人と船長の3人で脱出したのです。

その日は朝やけの美しい、波の静かな日で、4日間ほどの怖かったことが嘘のようでしたが、両親や兄とも別れ、生まれ故郷の勇留島も見ることもないと思い、涙、涙で、税庫前の岬も小池浜もかすんで見えたのを覚えています。



④ 元島民の証言 ～占領下の生活～

佐々木篤郎さん（国後島）

昭和21年3月頃と思いますが、ソ連の民間人が入ってきました。開拓団の人たちだったのでしよう200人も人が住むようになりました。

ソ連人は木材の切り出し、木工場労務、それに漁業者が多く、日本人のする事をよく真似しようとしていました。また、仲良くしたいといいました。

仕事は、日本人とソ連人とに分かれて頑張る、食事なども日本のお米や味噌、醤油で味つけしたものを残さず食べていました。

岩崎忠明さん（択捉島 紗那しゃな村）

占領政策の浸透によって一般人が入ってくると、島にはたかだか千人に見合うだけの建物しかないわけですから、そこにロシア人が入ってくると、住宅がないわけです。

当然、日本人が住んでいた家を半分に仕切って住み込むとか、必然的に日本人は追いやられることになりました。

鈴木咲子さん（択捉島）

ソビエト人は一般的には“ダンスや歌の好きな陽気な人たち”との印象を持ったものの、日がたつうちに日本人の目の届かない所では黙って物を持ち去ったり、気に入った物があると手に入れるまでねだったりと、村の人々は気の抜けない毎日でした。

あるとき、ソビエト人は村の食堂でパンを焼く窯がないといって、日本人の火葬場の炉を壊し、そのレンガを持ち出してパンを焼く窯を造ってしまいました。

日本人の憤りは大変なものでしたが、その窯で焼いたパンを食べなければ生きていけない状況でした。

三船志代子さん（択捉島 薬取しべとろ村）

私の家も半分にして、後ろに一家族が二家族が入ったんです。そこに「マダム」と呼ばれているご婦人がおり、日中は私どもの茶の間に遊びに来て、パンの焼き方など母に教えていました。

初めのころはみな「露助」「露助」と言っただけで怖がっていましたが、私の印象では、みんな仲良く暮らしていたと思います。

濱田和子さん（国後島）

ソ連の民間人も島に住み、ロシア人の婦人、子供の姿も見られるようになりました。その頃、我が家にミシンがあった事もあり、ソ連兵のズボンとか、将校の帽子等の縫製をたのまれ、姉はかなりの苦勞しながら作り上げていたようです。

私もマダムたちに頼まれて、和服を利用してドレス等を作り、その報酬として兵隊たちは、当時からとても貴重だった石けんや砂糖を持って来ました。

河田ハツさん（齒舞群島 多楽島）

ソ連軍は島の中心部の古別に進駐して無線局、学校、お寺等、公共物を全部占拠してしまい、頼りにしていた日本の兵隊さんたちは、シベリアの方へ連行されたようでした。

ソ連軍に占拠された学校などの公共物は、すっかり荒らされ、特にお寺などは数百柱の遺骨がばらばらに散乱していて、とても正気で見るのが出来ない有様でした。

夫が遺骨の整理をさせてくれるように交渉し、昭和22年9月4日によく許可が出て、翌日夫と義父はお寺の境内に大きな穴を掘って、新しい四斗樽とりんご箱2個に遺骨を納め、骨箱に入った186柱の遺骨と共に埋葬することができました。

⑤ 元島民の証言 ～島からの引き揚げ～

山本昭平さん（択捉島 薬取村）

昭和22年8月30日にみんなが叫んで「引き揚げ命令が来たよ」と、これで命は助かったと思いました。何されるか分からないうし、何かしたら「引っぱられる」という恐怖心がありましたから、まずは引き揚げ命令で命が助かったとほっとしました。

薬取から出るときは大変でした。島に残してきた飼い犬の頭が、海に入って船を追ってきました。そうすると他の犬も真似をして自分の飼い主のところへ追ってくる。運転していた機関士がこらえきれずスピードを出すと、それまではみんな悲しさをこらえていたのですが、誰かがこらえきれなくなって大泣きし、船の人たちはみんなそれがきっかけになって一斉に泣き出しました。

私も悔しくて泣きました。発動機船の音と、みな泣く声がつつかり萌崎の崖に反響し、なんとも言えない雰囲気でした。そういつた思いで島を抜け出してくる。そのときに、戦争に負けた「敗戦国の国民なんだ」と痛切に感じました。

河田ハツさん（齒舞群島 多楽島）

昭和22年9月6日の午後4時頃、突然、ソ連軍から帰国命令（強制送還）が出たんです。「明日、志発島に引き揚げ船が来るから馬を降ろし、一時間以内に身仕度をしてこの船で志発島へ行け。もし遅れると一生、北海道には帰れない」と言われ、大急ぎで身仕度をして船に乗りましたが、30余年間も住み慣れた思い出多い故郷の島を離れることはとても辛いことでした。

配船の手違いから、志発島に船が来たのは10月14日だと思えます。色丹や国後、択捉島の人たちが先に乗っていて、仕方なく、ぎゅうぎゅう詰めめの船倉の中に入りました。数時間後には根室に着くものと思っていましたが、着いた所は樺太の真岡港（ホルムスク）でした。

かつての女学校に収容され、座って漸く入れる位の高さに四段階にして、一坪くらいに仕切った所の2階に7人も入れられ、横になることもできない中で、日本の引き揚げ船が来るのを待ちました。

佐藤 正二さん（択捉島）

樺太では丘の上の女学校に収容されましたが、あふれんばかりの引き揚げ者と外でのテント生活。飛び交わされる悪質なデマ。日本人同士が互いに不信感におちいるような言動が生まれ、身を小さくして引き揚げの日を待つ毎日でした。

10日程を経て、引き揚げ船「興安丸」に乗船。そして3日目の朝、澄みきった青空のなか函館港へ。スピーカーより流れる「リンゴの歌」の軽やかなひびき、頭から足の先まで真っ白にされたDDT、子供心にもやっとな日本に着いたという安堵感が広がりました。

夜汽車で函館を出発し、10月上旬、約一カ月に渡る引き揚げの旅も根室で終わりました。

得能宏さん（色丹島）

昭和22年9月下旬ごろ、急にソ連側から「日本へ帰れ、残るんならソ連人になれ」と言われました。私ども一家も母を中心に引き揚げの準備にかかりました。

米、コーセン、カンパン、そして母は先祖の位牌、古い島の写真も一緒に。調べられても見つかからないよう底の方に。姉は一週間前に死んだ長男の遺骨も、一緒に入れました。

⑥ 元島民の証言 ～島よ、かえれ～

永塚良さん (国後島)

北方領土は父祖伝来の地であり、私たちはそれを受け継いで生き続けているのです。そんな大事な領土を、ソ連が強制的に四島に住んでいた日本人を追い出しているはずなど、どこにもありません。“島を還せ”“島よ還れ”という唱え方は、もう通用しません。

ロシア人も人間、仲間である限り、私たちと同様に島を故郷と決めつけているわけですから、こちらからだけの主張には応じてくれません。ただし、島はあくまでも日本の領土であり、主権は日本国であること。この点をロシア人にも充分理解させ、熟知していただかなければいけないと考えています。

村松弥志男さん (国後島 泊村)

日本の領土だったことに間違いはないのですから、まなじり決してでも返還してもらいたいです。私が住んでいて、先祖が汗を流してきた宝島なんですから。

私は80数才になって、あと何年も生きられないですから、生きていこううちに「父さん母さん島が返ってきたから、頑張ったかいあったよ」と言いたいです。

宮下健四郎さん (択捉島 留別るべつ村)

ビザなし交流や暮参にはなるべく行くようにし、回数は5〜6回は行きました。時化で上陸できないこともありましたが、島の近くにいつて見えてくるだけで、いいなあと思います。

死んだら、島にお骨を半分くらい埋めてもらいたいと思います。いろいろなことを言う人がいますが、我々の先祖は100年も、1500〜1600年も昔から島に行っていたのですから、四島を一括して返還してもらわなければ、平和条約を結ぶ必要はないと思っています。

若松富子さん (歯舞群島 志発島)

一世の方々の大半がこの世を去りました。納沙布岬に燃える祈りの灯は、無念の思いで死んでいった人たちの魂の灯です。北方四島は、日本の国にとっても大切な宝の島です。

カイロ宣言にも明記されているように、戦勝国の領土拡張は否定されているはず。これからも、屈する事なく、国際世論に訴えながら返還運動を続けて行かなくてはなりませんし、若い方々にも、引き揚げ者の血の叫びとも言えるこの願いを、引継いでいただくようお願いいたします。

Unit 3

北方領土の知識を深める！

Input 9

現在の交流を知る！



1 北方領土交流事業とは

北方四島交流事業は、1991年（平成3年）にソ連側から日本国民と北方四島在住ロシア人との交流を行うことが提案され、翌1992年（平成4年）から旅券（パスポート）・査証（ビザ）なしによって行われ、開始以来20年以上経過し、これまで約14,000人の日本人が訪問事業へ参加し、約10,000人のロシア人が受入事業へ参加しました。

本交流事業は、北方領土問題の解決を含む日露間の平和条約締結問題解決のための環境整備を目的として、北方四島在住ロシア人との相互理解を促進するため北方四島に在住するロシア人と返還運動関係者や元島民及び専門家等との相互交流事業です。

2 訪問事業の実施

北方四島への訪問事業は、日露間の平和条約締結問題解決のための環境整備及び北方四島在住ロシア人との相互理解を促進するため、北方四島を訪問し、島内では住民交流会やホームビジットなど様々な交流プログラムが行われています。

また、1998年（平成10年）から学術や文化などの専門家が訪問の対象者として追加されたことに伴い、専門家の派遣として、「教育専門家（中学校社会科教諭）」の派遣事業を実施しています。

なお、日本政府は、北方領土問題の解決までの間、日本国民による北方領土訪問について自粛を求めています。特例として1991年（平成3年）及び1998年（平成10年）の閣議了解により、対象者を、当面、以下の者で内閣総理大臣及び外務大臣が適当と認めるものに限定しています。

北方領土に居住していた者、その子及び孫並びにそれらの配偶者
 北方領土返還要求運動関係者
 報道関係者
 この訪問の目的に資する活動を行う専門家（1998年以降）



事前研修会

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより



島内視察

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより



日本人墓地の墓参り

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより



日本文化の紹介

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより



ロシア人家庭の訪問

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより



教育専門家派遣事業

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより

3 受入事業の実施

北方四島在住ロシア人を対象として、全国各地に受け入れる事業であり、地域性を生かし、受入地住民との交流会や日本の文化体験などで日本人への親近感や日本文化への理解を深めると共に、日本社会インフラの利便性を体感できるプログラムも取り入れて実施をしています。



日本文化の体験

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより



日本文化の体験

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより



スポーツ交流

～独立行政法人北方領土問題対策協会HPより

Unit4

目的意識をもって行動する！

出会う人すべてが互いに
気持ちの良い関係であるために



自他の「気づく力」を高めるためには
仲間との「協働」が効果的！

人の考えを聞き、自分の考えとの相違点を整理し明らかに
する。さらに、「つまり～例えば」と対話を繰り返し自分の
考えを高めていく。すると、よいアイデアがひらめく。

一人で考えるよりみんなで考える！
そのためには、仲間と仲良くなること。

団長とスタッフ

①	団 長	ふじき たくいちろう 藤木 卓一郎	北方領土返還要求運動佐賀県民会議会長 佐賀県議会議員 佐賀県議会議長
②	副 団 長	さだかね ひろみ 貞包 浩洋	佐賀県北方領土教育研究会副会長 佐賀市立東与賀中学校校長
③	生活・学習指導班長	うちだ しゅうたろう 内田 修太郎	神崎市立千代田中学校教諭
④	女子生活指導 学習指導担当	おおいえ まゆみ 大家 真弓	佐賀市立大詫間小学校主事
⑤	報 道	おおがみ けんじ 大神 健治	動画配信サービス
⑥	報 道	ひぐち あやの 樋口 絢乃	佐賀新聞社デジタル報道部
⑦	北方領土問題対策 協会推進委員	よこお ひらかず 横尾 平和	北方領土返還要求運動佐賀県民会議 佐賀市役所
⑧	事 務 局 員	べっしょ ともこ 別所 智子	北方領土返還要求運動佐賀県民会議事務局
⑨	添 乗 員	なかやま まりこ 中山 麻里子	株)JTB

緊急連絡先

1	090(1512)8026	本部専用携帯電話(横尾推進委員所持)
2	090(9592)4898	貞包副団長の個人携帯電話

団員

	名前(中学校/学年等)	良さ、優しさ、いいところメモ
①	いはら 井原 わかな (附属中3年 女)	
②	さかた まいこ 坂田 麻衣子 (馬渡中3年 女)	
③	なかじま らいき 中嶋 徠葵 (城南中3年 男)	
④	にし はるか 西 悠伽 (加唐中3年 女)	
⑤	もりもと ゆき 森本 結貴 (城東中3年 女)	
⑥	よしおか ゆりか 吉岡 優里香 (附属中3年 女)	
⑦	おおた あやな 太田 綾名 (鍋島中2年 女)	
⑧	いとう りお 伊東 莉央 (唐津東中2年 女)	
⑨	おりた きよあつ 折田 清篤 (第一中2年 男)	

団員

	名前(中学校/学年等)	良さ、優しさ、いいところメモ
⑩	<small>かたふち</small> 片瀧 <small>あおい</small> 葵 (有明中2年 女)	
⑪	<small>さかい</small> 坂井 <small>かほ</small> 珂穂 (清和中2年 女)	
⑫	<small>さかた</small> 坂田 <small>ゆの</small> 結音 (東与賀中2年 女)	
⑬	<small>そのだ</small> 園田 <small>はのん</small> 羽音 (第一中2年 女)	
⑭	<small>ちわた</small> 千綿 <small>ほなみ</small> 穂波 (城東中2年 女)	
⑮	<small>はらだ</small> 原田 <small>まひろ</small> 真宏 (基里中2年 男)	
⑯	<small>むらやま</small> 村山 <small>おうじろう</small> 旺次郎 (川副中2年 男)	
⑰	<small>きのした</small> 木下 つばさ (鍋島中1年 女)	

■バスに乗る際に心がけること

A バスに乗る際

- ① 原則として乗車後の座席間の移動はしません。
- ② バスの窓から手や足を出しません。
- ③ 1列目から4列目は引率者席、及び緊急時対応席（乗り物酔い等）とする。5列目以降の座席は自由とします。
- ④ 補助席は使用しません。

B 座席のリクライニングについて

- ⑥ 後方座席の方の了解を得てからリクライニング機能を使用します。

C トイレ休憩

- ⑦ 立ち寄り地点では必ずトイレを済ませます。
※1 市街地、市街地以外でもコンビニはほぼ見かけません。

D 大型荷物の管理について

- ⑧ スーツケース等の大型荷物は、トランクルームに入れます。
※2 トランクルームの荷物は原則、途中で出し入れをしません。
※3 エアコンの効かないトランクルームには、暑さに弱い食品などは入れないほうが良いでしょう。

E 手荷物の管理について

- ⑨ 1回の移動距離が50km以上になるため、忘れ物を取りに戻ることはできません。
※4 忘れ物をしやすい場所は、トイレ、売店のレジ、飛行機・バスの座席物入れなど。お尻のポケットやスラックスのサイドポケットに入れた財布等も要注意です。
- ⑩ 貴重品の管理は自己責任です。困ったことにならないようにします。

F 体調管理はしっかりと

- ⑪ 車酔いをする人は前日から酔止薬を服用しておきます。
- ⑫ 長袖の準備は各自でしておきます。

■宿舎、公共スペースで気を遣うこと

G 宿舎、公共スペースの利用

- ⑬ 出会う人にはあいさつをする。「おはようございます。」「こんにちは。」「こんばんは。」のあいさつと「お先にどうぞ。」「ありがとうございます。」「すみません。」の感謝の意を大切にします。
- ⑭ 旅館や訪問先の公共スペースでは、上品に振る舞います。
※5 旅館に集う方々が気持ちよく利用できるような何ができるかを考えて行動します。大声でしゃべりながらたむろしていたり、ふざけて廊下を走り回ったりすることは自分たちとしては楽しいですが、周りの人々は楽しくありません。

H 起床、消灯時間を守る

- ⑮ 集団生活であるため他を気遣います。
※6 睡眠不足で翌日、体調を崩したり、注意力散漫となり不用意なケガをしたりしないように心がけます。自分が眠くないからといって友だちを巻き込みません。

I お風呂のマナー

- ⑯ お風呂には海水パンツ等で入りません。
- ⑰ 湯舟に入る前に体の汚れを洗い流します。脱衣場で濡れた体を拭きません。
- ⑱ 湯舟には「飛び込まない 泳がない タオルや髪の毛を浸けない」

■ 空港や飛行機に乗る際に注意すること

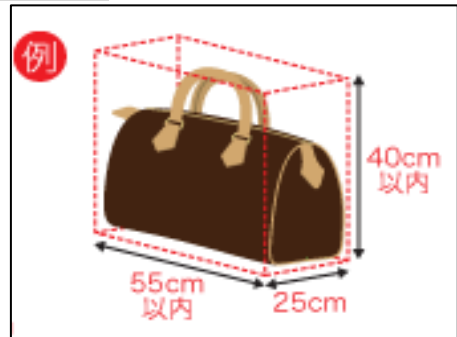
A 機内に手荷物を持ち込む時

- ① 機内持ち込み手荷物の大きさは、3辺の合計が115cm以内、総重量が10kgまで。(イラスト参照)
- ② 危険物(カッターナイフなど)や発火の恐れのあるリチウム電池などは、持込が制限されているため、保安検査場などで放棄させられる場合があるので注意します。
- ③ 水漏れの恐れがある手荷物については持ち込むことは可能だが、座席上の収納スペースには入れず、座席下のスペースなどで保管するようにします。
※1 水漏れの恐れのある物・・・海産物や漬物、ペットボトル、お酒など



B 手荷物を預ける時(搭乗時刻の20分前まで預ける。)

- ④ 機内に持ち込めない手荷物は、手荷物カウンターで預ける。その際、手荷物の3辺の合計が203cm以内で重量が20kgまでは無料、それ以上の重さになると有料になるので注意します。
- ⑤ 貴重品や発火の恐れのあるリチウム電池一部の電化製品、水漏れの恐れのある物は預けることができないので注意します。
- ⑥ 福岡空港や中標津空港で手荷物を預けると乗換地の羽田空港では荷物を取り出せないため、必要な荷物はあらかじめポーチやバックに入れて携行します。



C 保安検査場を通過する時

- ⑦ 保安検査場を通過する場合、保安検査場では、貴重品などはポーチやバックにまとめ、手荷物として検査を受けます。
- ⑧ 保安検査場は、時間帯によって非常に混雑する場合があるの、搭乗時刻の20分前までには通過します。

D 搭乗する時

- ⑨ 飛行機の出発時間は、ボーディングブリッジを離れる時間です。
搭乗口には、出発の15分前までに集合します。
搭乗する際は、電子機器類(特に携帯電話)の電源をきってから搭乗します。

E 羽田空港で乗り換える時

- ⑩ 飛行機の降口から到着ゲートまで移動する途中に乗換専用の入口が設置されています。団員が全員集合した時点で移動するため、添乗員やスタッフの指示は聞き漏らさないようにします。

* その他

移動する際は、できるだけ1人で移動せずグループで移動するようにし、集合している場所から離れる際は、スタッフや周りの参加者に声かけをすること。



携行品

衣類 3泊4日分の衣類

- * 1 コインランドリー等の利用はありません。
- * 2 佐賀3～5月くらいの気温。長袖の準備の有無は自分で考えます。
- * 3 運動靴がいいでしょう。

洗面具 できるだけ！

- * 4 宿舎に洗面具等の備付はあるが、環境保護の視点から歯ブラシセットを携行しましょう。

リュック等 活動行動を考えて！

- * 5 スーツケース可。貴重品、小物入れ用のリュック、バッグの準備は個人で考えます。

筆記用具等 メモは必ず必要！

- * 6 しおり、筆記用具は必ず持参します。

お小遣い 自分で考えよう！

- * 7 旅行中は、出費する場所がほとんどありません。おやつ、お土産を買う場合は自己責任とします。

飲食等 食べ過ぎ、飲みすぎは要注意！

- * 8 食物アレルギー等がある場合は自己管理、自己申告とします。

健康保険証

- * 9 コピーではいざという時に使えませんので本物を持参します。

健康保険証



その他 写真はいっぱい撮ろう！

- * 9 カメラ、携帯電話、音楽プレーヤーは自己責任での持参となる。カメラ、携帯電話を使つての撮影は、周囲や相手が不快とならないように使用します。
- * 10 酔い止め等のお薬は各自持参します。

ルール・マナー

道を外れて歩かないで

- * 知床では特に、貴重な動植物を踏みつける恐れがあります。

ごみの持ちかえり

- * 知床は世界自然遺産です。美しさを守るためにもゴミは持ちかえります。

野生動植物は野生のまま

- * 野生動物に不用意にエサを与えると、健康を害したり、本来の行動を変化させたりしてしまいます。
- * 不用意に近づくことのストレスを与えたり、慣れたりして攻撃性を高めたり、交通事故を誘発することになります。
- * 野生の動物（特に熊）に人間の食べ物の味を覚えさせると、人家や人を襲う危険な動物（特に熊）になってしまうことがあります。野生の動植物や石など持ち帰らないようにしましょう。

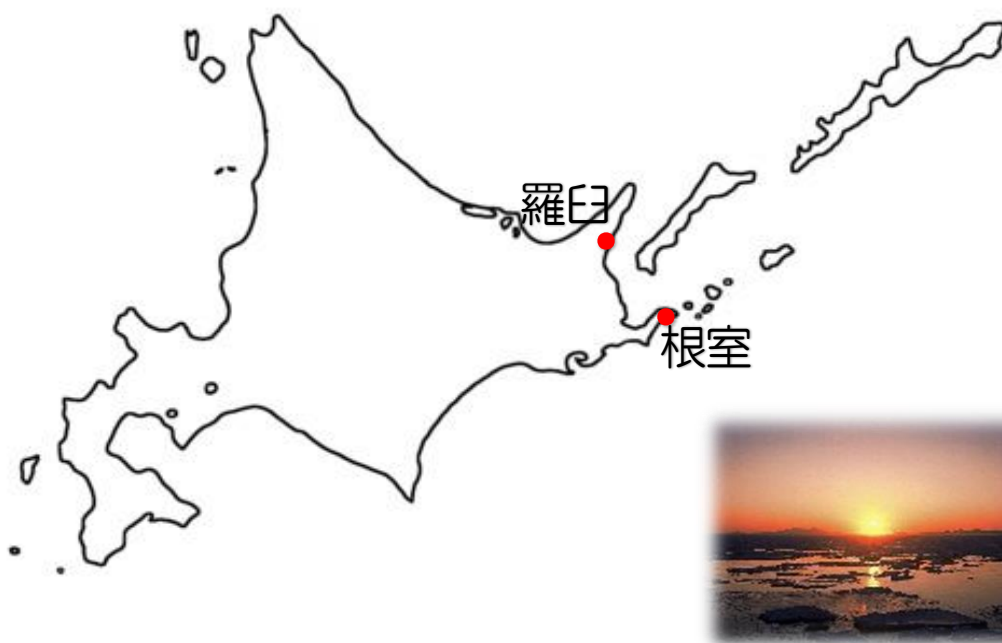
部屋割り

羅臼の宿「まるみ」 (8/17~18)				ホテル「ねむろ海陽亭」 (8/19)			
階	部屋番号	氏名	備考	階	部屋番号	氏名	備考

服装の参考に		4月	5月	6月	7月	8月	9月
羅臼	平均気温	0.7	6.1	10.8	14.7	17.1	14.9
	平均低温	-1.2	4.0	8.8	12.9	15.5	13.4
	平均高温	2.9	9.0	13.5	17.1	19.3	16.9
根室	平均気温	3.0	6.8	10.5	14.5	17.3	16.4
	平均低温	1.2	5.3	9.3	13.3	16.2	15.1
	平均高温	5.0	12.0	12.0	15.9	18.7	17.9
佐賀	平均気温	13.6	18.3	21.9	25.4	26.3	22.9
	平均低温	9.6	14.3	18.8	23.4	23.4	19.9
	平均高温	18.4	23.1	25.7	28.9	30.0	26.8

佐賀と根室の日の出、日の入り時間の違い（8月）		8月17日	8月18日	8月19日	8月20日
佐賀	日の出	5:42	5:43	5:44	5:45
	日の入	19:03	19:02	19:01	19:00
根室	日の出	4:24	4:26	4:27	4:28
	日の入	18:19	18:17	18:15	18:14

※ 東北海道の朝は早く、佐賀よりも1時間ほど早く夜が明けます。
 北海道の雄大な自然の中にいますので、朝は鳥などの声が聞こえてきます。早起きして日の出を見たり、新鮮な空気で深呼吸をしたりしながら大自然を感じましょう。



A large white rounded rectangle with rounded corners, containing 20 horizontal dashed lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the rectangle.

Unit 5

目的意識をもって学ぶ！



この島々の、何をどのように発信できる
ようになりたいのかを明らかにする！